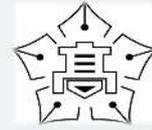




高 雲



鹿児島県立
大口高等学校

〒895-2511 伊佐市大口里2670

TEL 0995-22-1441 FAX 0995-22-9227

大口高校だより

生徒会長誕生!

9月19日に行われた生徒会長選挙で選出された1年生の中渡南翔(みなと)君に、10月7日、全校生徒の前で吉満校長先生から会長の任命書が渡され、生徒会が発足しました。

少し緊張しながらも凛々しい姿の中渡君は、「皆さんに約束したマニフェストの実現に向けて、全力で取り組みます。」と力強く挨拶をしました。新会長の手腕を期待しています。

なお、副会長以下の役員は以下のとおりです(敬称略)。
[副会長]宮脇海羽②, [書記]堀ノ内咲良②, [会計]林優希①, 肱岡桔平②, [広報]永山裕都②。 ※名前の後の番号は学年。



伊佐市青少年健全育成大会

10月19日に伊佐市文化会館で開催された同大会は、大口高校音楽部の演奏で幕を開けました。「黄金の俳句」の表彰式では、2年生の山内あかりさんに市長賞が授与されました。受賞した作品は、「風鈴が静かな夜に音一つ」です。

また、活動発表では、夏休みに喜界町との交流体験に参加した中渡南翔君らが、写真や動画を使って報告しました。



新焼酎まつりでも口高生活躍!

10月20日に開催された「大口酒造新焼酎まつり」で口高生が大活躍。2年生の池ノ上奈槻さんと永田万理香さんが「大口高校米(マイ)クッキー」の販売ブースを出して、池ノ上さんが曾木の滝を描いた新商品も販売しました。

祭りのフィナーレはもちろん「チームちむどん」。3年生の三重優仁君と2年生の吉永実央さんたちがダイナミックな踊りを披露し、喝采を浴びていました。



伊佐市民スポーツ大会出場

10月13日に伊佐市陸上競技場で開催された伊佐市民スポーツ大会に、サッカー部のマネージャー(上園真由さん、堅山はりるさん、山内あかりさん)とバドミントン部の宮脇海羽さんの2年生4人がリレーに出場しました。

優勝こそ逃しましたが、大健闘。「口高女子ここにあり」と大いに存在感を示してくれました。



「書道部」復活!

体育祭の部活動紹介で、「我ら書道部なり」とセンセーショナルに復活宣言をした書道部。

さっそく、練習の様子を見に行きました。すると、いつも賑やかな女子生徒たちが、ひたすら真剣に書に打ち込む姿がありました。

体育系の部活動と兼ねている生徒もおり、なかなか一斉に揃うことはありませんが、目標に向かって頑張っています。



伊佐情報インプット会開催

9月26日、県内各地で地域に密着した特色ある活動をしている方々を招いて、総合的な探究の時間に講演会を開催しました。

講師は、①浜本麦(始良市くすの木自然館)、②田尾友輔(薩摩川内市 SOKO KAKAKA)、③原本太郎(南九州市アソビシロ)、④土生さとみ(伊佐市 Studio m)の4人の先生方です。

講演の後には、それぞれの講師のブースに集まり、質疑応答タイム。1・2年生は、自分のやりたいことが見つかったかな。



3校合同学校説明パネル展

伊佐市にある大口高校、伊佐農林高校、そして大口明光学園高校の3校が合同で、特色ある教育活動や頑張っている生徒たちの姿を紹介するパネル展を、現在、鹿児島銀行大口支店で開催中です。会期は11月15日までですので、ぜひご覧ください。

なお、11月中旬には、3校合同で高校説明会も開催予定です。各中学校には別途ご案内します。



昭和45年卒業生、母校に寄付

昭和45年3月卒業の普通科3年D組の皆様が、母校に寄付をしてくださりました。

10月11日、幹事の西山伸作様と高城富紀子様が高校を訪れ、吉満校長に直接寄付金を手渡しました。校長は、「皆様の母校に対する熱い思いをしっかりと受け止めました。学校活性化のために活用させていただきます。」とお礼を述べ、感謝状を贈呈しました。



「大口高校ふるさと歴史講座」 要旨その4



【第6回目】7月10日(水)18:00~20:00

講師：吉満 庄司 先生
(大口高校校長)

鹿児島大学大学院で指導教官の原口泉教授の下で歴史学を学び、鹿児島県歴史資料センター黎明館の学芸員として、7年間近現代部門を担当。明治維新150周年に当たっては県庁の明治維新150周年推進室の専門員として記念事業に従事。専門は幕末の薩摩藩史で、特に対外関係史を中心に研究。大口高校に赴任してからは、生徒たちと一緒に地域の歴史を学んでいます。



テーマ：「幕末薩摩藩家老 新納久脩の生き様」

新納家は江戸時代を通して家老職を務めるなど重要な役割を担ってきました。特に、最後の家老となった新納久脩は薩摩藩英国留学生を率いてイギリスに渡り、五代友厚と一緒に軍艦や紡績機械の購入など極めて重要な役割を果たしました。ところで、薩摩藩英国留学生という名称が有名ですが、実際には武器や軍艦の購入や外交交渉などを行う使節団がメインで、おまけで留学生を連れて行ったのが本質です。したがって、薩摩藩遣欧使節団と呼ぶのが実態に即しています。また、五代の経済活動が目まぐるしく、莫大な費用のかかる軍艦の購入などは五代レベルでは判断できません。藩主の名代である新納だからできたことです。さらにベルギー商社の設立やパリ万博への出展契約など藩の行く末まで左右する判断は、新納だからこそ可能だったのです。そうしたことを考えると、明治4年の明治政府の遣米使節団を団長(大使)の名前をとって「岩倉使節団」と呼ぶのに倣って「新納使節団」と呼ぶべきだと私は思っています。

幕末の激動期に海外にまで行って活躍した新納久脩は、江戸時代の初めに島津家のために九州各地で奮戦した新納忠元と並ぶ功績を挙げたといっても過言ではないと思います。

ところが、明治18年に大島島司(金久支庁長)として赴任した奄美大島では、島民の側に立って黒糖の流通改革などを行っています。奄美の黒糖流通を独占していた鹿児島商人たちの反発を招き、失脚させられてしまいます。これまで鹿児島から奄美に派遣される役人は、いかにして多くの黒糖を徴収するかに専念しましたが、新納は負債に苦しむ島民に寄り添い続け、失脚して奄美を去った後も人々から「救世の恩人」と敬慕されました。

新納久脩は、渡欧経験の中で単に西洋の優れた文化や技術を吸収するだけでなく、公開途中に寄港したアジア各地の植民地や黒人奴隷貿易基地のリバプールにおいて近代国家の光と影を見て取り、奄美の厳しい状況に置かれている姿をそれに重ね合わせたのかもかもしれません。

閉講式

第6回目の講座修了後、橋本市長、別府PTA会長の御臨席のもと閉講式を行いました。

橋本市長の挨拶では、これほど多くの方が郷土の歴史を学ぼうという意欲に溢れていることに敬意を表し、大口高校が市民を対象にしたこのようなすばらしい講座を開催してくれたことに感謝されました。そして、2年後に迫った新納忠元生誕500周年に当たり、伊佐市として何ができるか検討していきたいと述べられました。

別府PTA会長は、コロナが完全に終息した訳ではない中で、この「ふるさと歴史講座」は新たなPTA活動の一つと位置付け、親と子とそして地域の方々が一緒になって楽しく郷土の歴史について学ぶことは、極めて意義あることと述べられました。

今回の「大口高校ふるさと歴史講座」の開催に当たっては、大口ロータリークラブ様、伊佐ライオンズクラブ様、伊佐市商工会様、株式会社新生様、株式会社神園商店様から協賛金をいただきましたので、それぞれの代表者の方に吉満校長から感謝状を贈呈いたしました。

次に吉満校長から、6回すべて参加された方に皆勤賞が授与されました。今回も半数以上の受講者が皆勤賞をもらわれました。

最後の吉満校長の挨拶では、「大口高校は伊佐の皆さんに愛されそして支援を受けています。我々も市民の皆さんに恩返しではないかと考え、このような市民講座を開催することにしました。」と述べました。「前例もないし予算ありませんが、諦めたらそこで終わりですので、知恵を絞って開催にこぎ着けました。これからは皆さまに愛される学校作りに努めたいと思います。」と抱負を語りました。



受講者の感想

7月18日の南日本新聞の「ひろば欄」に、隈元新さんの投書が掲載されましたので紹介します。

大口高校は地域貢献活動として昨年から6回シリーズで、市民向けのふるさと講座を開いている。昨年は伊佐の歴史を考古学の視点から捉えた。今年は「新納忠元」の生涯や生きざま、生きた時代の歴史の潮流や明治維新への影響などを学んだ。

再来年は忠元公誕生500年だ。校長先生の発案で同窓会やPTA、有志の方々が協力して企画した。講師も著名な研究者を含め6人の素晴らしい先生方を集められた。申込みは定員50人の倍以上。関心の高さがうかがえた。

大口城跡の城山にボランティアによる桜の植樹が続けられ、現在850本ほどになる。忠元公誕生500年には千本桜となることを夢見ながら、講座を楽しく学ばせてもらった。

資料に基づいて正確に知ることはもちろん基本である。だが、通説に惑わされない視点も大切であることを学んだ。歴史が息づく伊佐の地をますます好きになった。

